

最優秀賞に輝いた田崎さん（左）と新聞配達を約40年続ける平崎さん



「優しさも届けてくださり感謝」

新聞配達に関するエッセーコン

最優秀賞に田崎さん（日之影 小6年）

第28回新聞配達に関するエッセーコンテスト（日本新聞協会主催）の小学生部門で、日之影町立日之影小6年、田崎香澄さん（12）の作品「ポストに優しさ届いた」が最優秀賞に輝いた。配達する人への感謝の気持ちをこつこつと、田崎さんは「私たちが寝ている間にも働く方がいて社会を支えていることを忘れずにいたい」と話した。

田崎さんは4年前、自宅の新聞受けの郵便ポストが台風で壊れたものの、後日、ポストが新調されているのに気づいた。新聞配達のおじちゃんが手作りしてくれたと知って、実際に会いに行った体験談を書いた。

聞けば、おじちゃん は配達歴40年。毎朝3時に起きて50軒に配るといふ。「どうしてそんな大変なことを続けているの」と尋ねると、返ってきた答えは「読者に喜んでほしいから」。エッセーは「新聞だけではなく優しさも届けてくださっている」と思い心から感謝した」と締めくくった。

エッセーに登場したのは、町内で地元紙や全国紙を配る日之影新聞販売所従業員、平崎正則さん（88）。取材に「配達員のことまで思いやる心根が本当にうれしい。読者が待っているので90歳までは続けたい」と笑顔で語った。田崎さんは「新聞を読むと自分の知らない世界が分かります。平崎さんには長生きして無事故で頑張っ てほしい」とエールを送る。

コンテストは「大学生・社会人」「中学生・高校生」を含め3部門あり、全国から計3879点の応募があった。

【重春次男】